

成宮まり子（日本共産党・京都市西京区）

米軍Xバンド・レーダー配備について

【成宮】日本共産党の成宮まり子です。まず、在日米軍が、ミサイル探知用Xバンド・レーダーを京丹後市に配備しようとしている問題についてうかがいます。

京都府域に初めて、米軍の特権を保障する日米地位協定の対象となる米軍基地が置かれようとしており、府民全体にとって極めて重大な問題です。防衛省はすでに、府北部の市長・町長らに次々と面会し、京丹後市では住民説明会や市議会全員協議会も開かれるなど、急を告げる事態となっています。

6年前にレーダーが置かれた青森県・車力では、米軍関係者による女性宅への侵入、暴行・傷害で緊急逮捕、交通事故など9件もの事件が起き、海での遭難事故の時にも、飛行禁止区域で警察ヘリが捜索できないということまで起きています。

京丹後市民のみなさんからは、「米軍基地が来て、沖縄のような被害が起きないか」「電磁波の影響は大丈夫か」「ドクターヘリや観光への影響が心配」「攻撃の的にされるんじゃないか」と、さまざまな不安の声があがっています。

そもそもこの計画は、日本国民を守るためではなく、アメリカ本土防衛のためのものです。米国防長官は「北朝鮮の核と長距離弾道ミサイルの開発を受け、米国本土防衛のため、Xバンド・レーダー配備を急ぐ」と言っているではありませんか。

そこですか？米軍レーダー配備について、防衛省は「スピード感を持ってとりくみたい」などとし、実際は、数カ月の間にも配備がされようとしているのです。だからこそ、京都府知事として「受入れはしない」と、今の時点で明確に示すべきと考えます。いかがですか。

【知事】 Xバンド・レーダーですが、短絡的な話しでなく、一番の問題は北朝鮮どうするかです。北朝鮮の労働党の機関紙は日本も核攻撃の対象になるとおっしゃっている。そうしたことに對してどういう形で防衛態勢を取るのか。Xバンド・レーダーというのは日本の自衛隊のほうも情報を共有できるのではなかったですか。アメリカ軍はそうかもしれないが日本の自衛隊はそのために使えるのです。そうした点を踏まえてどういう形で国防上の問題を整理するのか。これは国の役割。それに対して住民の不安がある。住民の安心・安全・健康の問題も含めて風評被害の問題も含めて、この安心・安全についてはきちっと問いたださなくてはならない。まず地元住民のみなさんが、どういう事態なのかどういふ状況なのかを理解する必要がある。従って私どもは防衛省に対して地元住民の説明をお願いした。そうしてその中で、安心・安全の問題と国防の問題を取り次ぐ広域的行政体として、私はこれから調整に入っていくという覚悟でいます。

【成宮・再質問】 北朝鮮の問題とおっしゃいました。ミサイルや核の動きは絶対に許すわけにはいきませんが、軍事的な対応に対してこちら軍事的に事を構えると、こういうことでは事態を一層悪くすることにつながりかねないではありませんか。そして今、「自衛隊にも情報が流れる」とおっしゃいましたけれども、ということはアメリカと日本の自衛隊がいっしょに戦う、戦闘に参加することも想定されるわけで、まさに憲法が禁止している集団的自衛権の行使に道を開く、(京都に米レーダーを置くことは)そういう役割にあると言わなければなりません。

知事、今の段階から、命と安全を守るといふ立場に立つならば、きっぱりと集団的自衛権の問題考えても、憲法9条の問題考えても、受け入れはするべきではない、こう考えますが再度お答えください。

【知事・再答弁】 考え方がちがって答弁が難しいのですが。片方日本人の国民を拉致してきた。また、大韓航空機事件を起こした、さらに核実験を積み重ねて近隣の国を火の海にしている。どうやってそれを、成宮議員はそれを防げるのですか。その自信はおありなのですか。そうした問題を踏まえずして、そういうことをのべるのは全く無責任極まりないと私は思っております。

【成宮・指摘要望】 アメリカの当局が、北朝鮮が狙っているのはアメリカ本土なのだと、つまり、ハワイやグアムやワシントンなんだと、その本土防衛のためのレーダーの最先端基地を京丹後市に置く、と言っているわけで、問題を知事の答弁は捻じ曲げるものだという様に思います。

改めて府民の不安の声もあるわけですから、これはきっぱりと拒否をすべきだということを強く求めて次の質問に移ります。

北山文化環境ゾーンについて

【成宮】 次に、北山文化環境ゾーン構想についてです。

計画の実際をみますと、「にぎわい・活性化」などのコンセプトが目立ち、これで本当に府民の願いにこたえるものなのかと、疑問です。

例えば、府立植物園は、府民の貴重な宝であり、保有植物 12,000 種、世界中から日本に初めてやってくる植物の栽培ノウハウを含めて、栽培技術は高く国内外で評価されています。ここには、単なる公園ではなく「生きた植物の博物館」といえるホンモノの魅力があると思います。

ところが、いま進行中の計画はどうでしょう。北山通側の森やバックヤードを切り下げて建物を建て、わざわざ大阪のイタリアン・カフェを呼んでくる。カフェは、1箇所ではなく3箇所も募集するなど、植物園整備計画にもなかったことがトップダウンで進められようとしているではありませんか。

先日、植物園に毎日通っておられるという方からお手紙をいただきました。「最近、大木を切り倒して、人工的なカフェや門などをつくっているが、本来の魅力をぶちこわすようなことばかりだ。カフェなど周りにあるじゃないか。入場料の60歳代有料化で、楽しみを奪わないでほしい」、こういう怒りの声です。この声のとおり、植物園の本来の魅力をゆがめ、削り取り、一方で、いちばん利用の多い層に負担を増やすようなことは、やめるべきです。

また、新総合資料館についても、「ガラス張り」「見える化」などの構想ですが、「これで、国宝や重要文化財含む貴重な資料の収集・保存という、資料館本来の仕事ができるのか」という疑問の声が、利用者からも現場職員からも寄せられています。

歴史的に築かれてきた植物園や、貴重な資料の収集・保存という資料館の本来の役割や魅力があり、それらをふくめた北山地域の町並みがあります。それをゆがめ、「にぎわい」「活性化」などとして、エンターテインメント性ばかりを目立たせて「北山文化環境ゾーン構想」が進んでいるといわざるをえません。この構想は見直し、府民と現場職員の意見と議論をふまえた計画にするべきと考えますが、いかがですか。

【知事答弁】 私は共産党は国民を守らない党だということがよくわかりました。それだけは申し述べておきます。北朝鮮に対してなんというか、全然理解できない。

植物園の再生事業ですけれども、何かちっちゃいところといいますか、一番大きなところは何かというと、一番お金を使っているのは、実は水道の配管とか、電線の共同溝とか、園路とか、伝統園芸展示場だとか、昼夜逆転館及び高山植物室とか、桜の林の再生とか、四季の丘とかね、植物物をしっかり育てて、見守っていただけるような再生のところにお金を入れているのです。

カフェとは、それはある程度の収入も得て、その中で自転できるようにしていく。あとはトイレとかそういうやつですからね。カフェとかトイレはエンターテインメントではありません。これはアメニティの問題でありますので、それはちゃんと訂正させていただきたいと思います。

そうした点では、本当に違うところだけとらえて、一生懸命膨大に言っているけれども、まず全体の予算の中で、それが何%あって、そして、どういう形で植物を守るための再生事業が取り組まれているのかをよく勉強していただきたいと思います。

資料館についても、基本的に工事の変更をしたのは、資料の保存について十分なさらに追加措置を講じていきたい、これは、有識者も入れて、資料をどういうふうに扱うか、それを府民のみなさんにどう提供するか、このことをしっかりと会議で検討してやっているのです、ガラス張りだから違うとか、そんな変な言いがかりはやめていただきたいと思います。

【成宮・指摘要望】 まず知事、「共産党は国民を守らない」などとそんなデマをこういうところでやめていただきたいと思います。戦前戦後一貫して侵略戦争に反対し、憲法9条と平和を守り頑張ってきた公党に対してそういうデマは本当にやめていただきたい。

そして、この北山文化環境ゾーンについては、私は本来の仕事はなにかということが、問われているというふうに思うのです。自治体が本来やるべきは、民間の再開発で自然や環境が破壊されるのを規制し食い止めることではないかと思うのです。

ところが、いま府がやっているのは、府立植物園でいえば府民と職員の共同で営々と築き上げてきたホンモノの魅力、「ほんまもん」とされてきましたが、それをゆがめ、削り取り、再開発を押しつける、まさに正反対のことではないかと言っているのです。このさい、構想全体を見直して、自治体が本来やるべき、開発を規制する、本当の意味で文化と環境を守る立場に立つよう求めて、時間の都合で次に進みたいと思います。

高校教育制度について

【成宮】 高校教育制度についてです。

「京都市・乙訓地域の新しい高校教育制度」が、府教育委員会により、多くの不安と疑問の声を押し切って決定され、1年後の入試から導入されようとしています。

通学圏を1つにし、総合選抜制を廃止して単独選抜制とすることにより、「自由に選べる」「努力すれば行きたい高校に行ける」として、結局は「合格・不合格は自己責任」だということが、生徒と保護者に押しつけられます。すでに保護者らには「大変なことになった。うちの子は行きたい高校に行けるのか」と不安が渦巻いています。

あわせて、府立高校には「特色化」として、各校が「特色」を打ち出すことが迫られ、「難関大学への進学実績」や「部活動実績」「就職実績」などで競わされ、学校予算でも「特色」で「格差」をつけることを当然とする。さらに中学校でも、学力診断テストが3年生から2年生、1年生にまで広げられ、府教育委員会は「3年以内に全国トップ10をめざす」などと言いますが、受験競争をいっそうひどくするばかりで、どの子にも豊かな学力を等しく保障する、本来の公教育にふさわしくはないと考えます。

こうした改革、とりわけ「高校改革」により、すでに山城通学圏や、府中・北部でも、高校の格差や序列化は深刻な事態となっています。ある高校に専門学科ができると志願者が倍増し、一方でその近くの高校は定員割れをし、学力や生活に課題を抱える生徒が集中し固定化する。授業さえ困難になるなど、地域でも大問題になっているではありませんか。

そこでいかがいます。京都市内・乙訓地域で導入される「新制度」は、府内全域ですすむ高校の格差と序列化にいっそう拍車をかけ、子どもも、中学・高校も、競争に追い立てるものではありませんか。予算でも格差をつけ固定化するやり方はふさわしくないと考えますが、いかがですか。

（知事答弁を求めているにもかかわらず知事が発言）

【知事】 デマというような言い方をされたので、真意だけきちっと申しあげておきますけれども、私が申したのは、成宮さんの方法では、日本の国民が守れないんじゃないかってことを申し上げたのでありまして、私はデマを申し上げたわけでも何でもなし、その方法では守れないのだという自分の・・・。

（成宮委員が「答弁を求めている、時間がないのに発言をやめよ」と抗議）

【知事】 守れない覚じゃありませんか。そういうやり方では守れないんじゃないかということを上申したということ、一応、公党に対するあれになりますので、弁解させていただきたいと思います。

【教育長 答弁】 京都市・乙訓地域の新しい高校教育制度についてであります。中学生が希望する高校を主体的に選べるよう、多くの生徒や保護者の声にこたえ、見直したところであります。

先ほどご指摘がありました。この間実施をした保護者への説明会において、我々がとったアンケートでは、「選択肢が広がり良くなった」など、新しい制度に期待する多くの声をお聞きしているところです。

各高校には、さまざまな能力や希望をもった生徒が入学してきておりますが、こうした生徒に対応していくためには、どの高校も中身は同じという画一的な教育内容押し付けるのではなくて、各高校が生徒の状況に応じて多様な教育内容を準備し、魅力づくりに努めていくことが必要であります。

新しい制度は、将来の夢や目標をもった生徒一人ひとりを大切に、生徒の多様な個性や能力を最大限に伸ばそうとするものでありまして、決して競争をあおるようなものではありません。また、特色化事業についても、生徒一人ひとりをしっかりと伸ばしていくための予算をお願いしており、ご指摘のような予算で格差をつけて固定化をさせるというようなものではありません。例えば、京都フロンティア校支援事業では、高校が自ら企画する多彩な魅力づくりを支援するものであり、大学進学だけを重視したり、特定の学校だけ集中して予算をつけたりするものではなくて、すべての高校の特色づくりを支援するものであります。

教育委員会としては、入学してきたすべての府立高校生が、夢や希望をもって意欲的に高校生活を送れるよう、魅力ある学校づくりに努めてまいりたいと考えております。

【成宮・再質問】 説明会でよくわかっていただいたとおっしゃいましたけれども、渦中にある、保護者や子どもたちの思いを、想像されたことがあるのでしょうか。

現場では、この春、中学3年生になる子が「私、もしかして近くの高校に行けないかも知れん。ごめん、お母さん」と不安を訴えておられました。中学の先生は「生徒が将来や人生を考える掛け替えのない時期に、どうやって進路指導をすればいいのか、教育委員会からは何も示されない」と悩んでおられます。小学校の前で進学塾がチラシを配り、「高校制度が変わります。学力の高い子にとってはよい制度だけれど、これまで以上に受験準備が、小学生から必要です」といっているのです。中学生、小学生の保護者まで「こうなったら、うちも塾通いを考えないといけない」と戦々恐々している、これが現場で起こっていることです。

そういう、たくさんの不安や疑問の声こそ、新制度が、子どもと保護者の願いに背いていることの何よりの証明ではないですか。再度お答えください。

【教育長・再答弁】 どういうことをもって序列化とおっしゃっているのかが問題だと思うのですね。塾のようなランキングのような見方をするというのは、少し一面的すぎるのかなと私は思っておりまして、例えば、全国大会でサッカーで準優勝するような学校と、大学進学が多い学校とどうやって比較するのですか。それぞれの得意な分野をやっぴり用意をして、それを伸ばすというのが私どもの役割だというふうに考えております

【成宮 指摘・要望】 さまざまな特色があるとおっしゃいますけれども、結局は、学力試験で最低の合格点数で切られて合格、不合格が決まるわけでしょう。いまね、それぞれが選んだところがそれぞれの責任なんだという制度に変えられようとしている、これこそ究極の「自己責任」だと思うのです。ここを選んだあなたの責任ですよと、そういうことが現場に押し付けられようとしているのですよ。

経済格差が、学力格差につながり、子どもの進路にも影を落としている、そういう中で、格差を是正するのが教育行政の仕事のはずなのに、いっそう拡大してはいけないと思います。「新制度」「高校改革」はやめるべきだ、このことを厳しく指摘して、終わります。ありがとうございました。